

資料 2

令和 3 年 3 月 1 7 日

## 第 3 回 いじめ問題対策連絡協議会

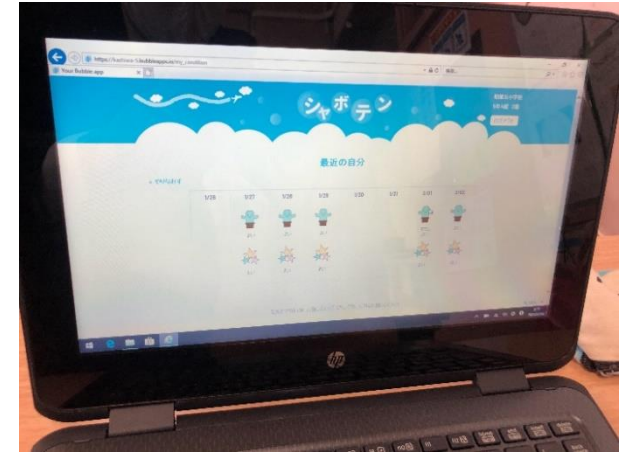
# 悩みに寄り添う環境づくりと多様性の理解 ～これからのいじめ防止方策～

---

柏市教育委員会児童生徒課

# (1) 心の健康観察

---



## ○主な目的

- ①自己の状態を知る力（メタ認知）を育む
- ②子どもたちの悩みの把握と早期対応  
（いじめや悩みの深刻化 未然防止）
- ③子どもたちが「SOSを出せる」環境づくり



ストレスを抱えやすい環境下の子どもたちを少しでも救うことに寄与したい



# 入力画面イメージ

いまのからだのぐあいは？



わるい



すこし  
わるい



すこし  
よい



よい

いまのきぶんは？



わるい



すこし  
わるい



すこし  
よい



よい

体の具合



今の気分

# 直近8日間の自分

## 最近の自分

1/05	1/06	1/07	1/08	1/09	1/10	1/11	1/12
	 わるい	 すこし よい	 すこし よい	 すこし わるい			 すこし よい
	 すこし よい	 すこし よい	 すこし わるい	 すこし わるい			 よい

過去の自分



メタ認知

# 相談したい時は先生へ【話したいボタン】

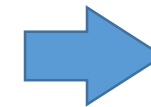
元気がでない時、お話したい時におしてね。だれとお話ししたい？

 担任の先生     男の先生     女の先生

 ありがとう     校長先生

周りの人にわからないように話かけてくれるよ

ボタンが押されると登録された職員のメールに送信



相談対応

担任の先生

男の先生・女の先生・・・同性・異性の相談（校内で選定）

保健室の先生

校長先生

# 教員確認画面

	2/19 金	2/20 土	2/21 日	2/22 月	2/23 火	2/24 水	2/25 木	2/26 金
	体 心	体 心	体 心	体 心	体 心	体 心	体 心	体 心
1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	• 	• •
2	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
3	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
4	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
5	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
6	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -

クラスの入力状況を確認



「相談したい」  
「調子が悪い」  
児童生徒へのアプローチ



表示している期間に3回以上入力があり、平均が「少し悪い」以下の子に表示しています。



今日お話ししたいボタンを押した子に表示しています

# 教員確認画面

< ダッシュボードへ

## 1年1組1番の健康状態

パスワードを確認する

この子どもに注目しない

### 体の状態



### 心の状態





# 活用場面の想定

## 【児童生徒】

朝の会の健康観察中に入力

or

登校した児童生徒から入力

慣れていけば朝・帰りの2回入力

GIGAスクール開始後「ステップ0」として



## 【教員】

- ・ 日常の児童生徒の心の変化のチェック
- ・ 相談への対応



# 運用までの流れ

- **検証実験**（1月末～3月中旬）

小学校 7校 中学校 3校

通常学級 特別支援学級

計 22学級 287名

- **改良期間** 4月～8月

- **運用開始** ⇒ 令和3年度9月を予定



# 成果

- ①自己の状態を知る力（メタ認知）を育む
  - ・子どもが自然に1週間を振り返っていた。  
（「毎日良かった」「この日は何があったのだったけ？」）
- ②子どもたちの悩みへの早期対応
  - ・児童生徒とコミュニケーションをとるきっかけとなった。
  - ・他の先生とコミュニケーションをとるきっかけとなった。
- ③子どもたちが「SOSを出せる」環境づくり
  - ・さりげなく「SOSを出す」サインが出せるツールとなっていた
- ④その他
  - ・朝の子どものルーティーンになっている。（ステップ0）

# 課題

- ①自己の状態を知る力（メタ認知）を育む
  - ・子どもにとって「入力」するだけの物足りなさも。
- ②子どもたちの悩みへの早期対応
  - ・担任以外に「話したいボタン」を押された場合の学校体制をきちんと整える必要がある。
  - ・朝，集会や行事があるとメールのチェックが難しい。
- ③子どもたちが「SOSを出せる」環境づくり
  - ・クラス横断的に「元気がない子ども」だけを見れると良い。
  - ・実際にいじめを受けており，SOSを発信したいと考える児童を想定すると入力時の配慮は必要不可欠。
- ④その他
  - ・「話したいボタン」の押し間違えが多い
  - ・回線の重さ

# 改善点の方向性

## 〈機能面〉

- 「話したいボタン」の押し間違いを減らす工夫
- PCメールを確認しなくても利用できる設計（主に話したいボタン）
- クラス横断でも見やすい機能（チェックすべき児童生徒だけが一覧で見られるなど）
- 見やすさの改善（ユニバーサルデザイン観点）
- 先生向け、目的や使い方がわかる説明資料作成(映像、テキスト資料)
- 好事例を元にしたマニュアル(学校への推奨対応体制も含める)

## 〈その他利用に関すること〉

- 子どもが入力し続けてもあきない工夫（フィードバック機能など）
- 4択以外の情報の入力機能（体温など）

# 委員の皆様より

- 質問や忌憚のない御意見をお願いいたします。

## (2) 人権教育プログラム (柏市版)

---

究極目標 『 多様性を認め合える人間関係づくり 』

○主な目的

①いじめの未然防止

⇒いじめの背景に人権に関わる様々な要素が絡んでいる

②人権について、義務教育9年間で系統的に学ぶ

(小学1年生から中学3年生)

③自己の意思決定の機会

(葛藤から本音や思いを引き出し、意見の交流を行う)

# 運用までの流れ

- **検証実験** 令和3年3月～令和3年12月  
対象：小学校・中学校  
テーマの設定・授業の改善
- **準備期間** 令和4年1月～3月
- **運用開始** ⇒ 令和4年度を予定



# 9年間の系統（例）

小1：これはいじめ？（いじめの種類）

小2：なぜいじめをしちゃだめなの？

小3：親からのいじめってあるの？（虐待）

小4：男らしさ・女らしさって何？（LGBT）

小5：「いじめ」と「いじり」（いじめの定義）

小6：困ったり悩んだりしたら誰かに相談しよう（SOSの出し方）

中1：こんな時、見て見ぬふりをしていませんか？（脱傍観者教育）

中2：こんな時、どうしたらいいの？（ダブルバインド型いじめ）

中3：「人権」って何？（多様性を認め合う）

# テーマ

## 現在実証実験中のテーマ

- ・ 「いじめ」と「いじり」（いじめの定義）
- ・ ステメ（ステータスメッセージ）
- ・ 一生懸命な子



上記を含め20ほどのテーマを設定  
教材・指導案・ワークシートをパッケージ  
系統化し学校の実態に合わせて実施

# 素材の一例

教材はプロのマンガ家によるマンガ形式のものを素材とする



# 授業の流れ

素材の提示（マンガ）

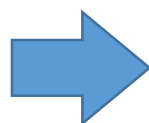


自己の選択



他者の意見を受けて

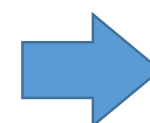
意見の交流



選択



意見の交流



ふり返り



# 実際の検証授業より

## ①自己の選択

- ・受け入れる(6) ⇒やらないと相手が嫌な気持ちになる。仲が悪くなる。
- ・やめるよう主張(20) ⇒一生嫌な気持ちかもしれない。これ以上やりたくない。
- ・その他(9) ⇒先生や家族に相談する。

## ②他者の意見を受けて

- ・受け入れる(3) ⇒やめるように主張しても「何でだよ」と言われそう。(B⇒A)
- ・やめるよう主張(21)⇒仲が悪くならない方法もあるという意見で恐らなくなった。(A⇒B)
- ・その他(11) ⇒意見を聞いて誰かに相談することも必要だと思った(A⇒C)

## ③感想

- ・自分たちには断る「権利」がある。嫌なことは自分の口からはっきり言う。
- ・相手の気持ちを想像して自分の行動を決めようと思った。
- ・自分も同じことをしてしまっていたので気を付けようと思った。

# 委員の皆様より

- 質問や忌憚のない御意見を願いたします。